



## 新米がとれました！！

今年は稲刈り直前に「まさか」のハプニングがあり、皆さんに新米をお送りできるかどうかハラハラしていたのですが、台風前に訪れた束の間の晴れ間にとりあえず9月にお届けする分だけは収穫することができました。そのハプニングというのは、地元の「ライスセンター」という籾の乾燥調整施設の火事。刈った後の籾（モミ）を乾燥して、皮（＝籾殻）を剥くための施設です。14日深夜に火災が発生。消防団に入っている耕太もすぐに

出動しましたが、火の勢いが強く、朝までに全焼してしまいました。そんなわけで、刈り終わったとしても乾燥とモミ摺りができない、という状況に陥ったのですが、運よく隣町の乾燥施設を使わせてもらうことができることになり、予定より遅れはしたものの、無事に稲刈りができました。



稲刈り初日は、連休だったので小学生2人もお手伝い。先日の運動会で、将来の夢は「農家」と答えた次男・連蔵は、いでたちからしてすでに立派。稲刈りのときは長袖・長ズボンに軍手が定番ですが、親に言われるまでもなく自ら作業用の服を着て登場してきました。頼もしいです。コンバインで刈りにくい四隅は鎌で切るのですが、4歳の讃太郎も立派な手つきで刈り取り。もちろん、順番で大好きなコンバインにも乗りました。

それにしても、男の子ってどうしてこう機械好きなんでしょうね？女性が機械に乗ると、それ以外の力仕事を男性に任せられるので合理的なのですが、どうも機械が苦手なのはDNAの違い！？実は、田舎で暮らすようになって、巷で言うところの「男女共同参画」に疑問を持つようになりました。男性の方が向いている仕事というのがとてもはっきりしているからです。薪割りとか、大工仕事とか、機械仕事とか。それらをやるくらいだったら、私は喜んで炊事や洗濯をします（笑）



コンバインのタンクに溜まった籾をだす瞬間、「ヤッター！」と思わずにんまり。半年間か



けて育てたお米が手に取れるのですから。まだ皮がついた「粳」の状態ではありますが、何ともいえない感動があります。子供たちも順番に手を出しては粳をさわり、「やっとできたね」と。農業はもちろん楽な仕事ではありませんが、他の仕事だってそれぞれ大変さがあることを思うと、農業は本当に感動の多い仕事だと思います。さあ、この粳を乾燥させて、粳摺りをしたら玄米に、それを精米したらピカピカの白米になります。ワクワク！



稲刈りの話はこれくらいにしまして、お次は夏休みの終わりに開催した田んぼバレー（田んバ）大会のご報告。今年は世界各国から小中学校に英語を教えに来ている先生方が参加してくれ、初めての国際大会となりました。大人が泥んこになり、子供たちは呆れて見ている、というのが恒例で、今年もアホみたいにはしゃぐ大人たちを子供たちは目を細めながら眺めていました。去年まで田植え前に開催していたのですが、今年は減反している田んぼを会場にしたので、夏休みに開催。泥を落とすために、すぐ近くの川に入るのが最高でした。



夏休み期間中は、本当にたくさんのお客さんに来ていただきました。そしてたくさんの刺激と笑顔を頂き、人に来てもらえるというのはありがたいことだなあとつくづく思った夏でした。あるお客さんから「アイガモを食べてみたい」というリクエストがあったので、1羽さばくことに。まだ脂が乗るには早いかなあと思いましたが、どうしてなかなか美味でした。左の写真は、アイガモの内臓で実験中の子供たち。

臭いのだそうで、洗濯ばさみで鼻をつまんでいました。

最後にお知らせを。東京で22日から我が家の暮らしぶりを紹介する写真展が開かれます。チラシを同封しますので、東京にお住まいの方や、お知り合いがいらっしゃる方は、よろしければぜひいらして下さい。

さて、新米はまだ水分をやや多く含んでいますので、若干水を控えめに炊いていただくとちょうどよくなります。それではとれたての新米をご賞味下さい。また、これからの1年もどうぞよろしくお願いたします。

